

令和7年度 学習計画(シラバス)

教科		科目	対象学年 コース	単位数	担当者氏名	教科書 著者 発行所	使用教材・発行所
芸術		音楽Ⅰ	1年	2	林原理恵	MOUSA1 小原光一 他8名	
指導の重点		1.芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 2.感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 3.音楽文化についての理解を深める。					
評価の観点		知識・技能	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。				
		思考・判断・表現	・創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に着け、創造的に表している。 ・音楽と形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じながら、解釈したり価値を考えたりして音楽に対する理解を深め、良さや美しさを創造的に味わっている。				
		主体的に学習に取り組む態度	音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に興味を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。				
学習の評価		1.小テストで音楽に対しての基礎知識、理解を評価する。 2.音楽表現の発表や授業中の姿勢、態度等で音楽表現の技能、関心を評価する。 3.作品を鑑賞した感想などを通して鑑賞の能力を評価する。 4.1と2を考慮し、総合的に評価する。					
学期	月	考查	単元	学習内容		学習の目標(評価)	
1	4	中間	発声	校歌 呼吸法と発声法 「アヴェマリア」「Lemon」「翼をください」		・校歌の歌詞とメロディーを捉え、大きな声で歌うことができる。 ・教科書の「ヴォイス・トレーニング」を読み、正しい姿勢や呼吸法、発声を身に付けることができる。 ・曲種に応じたいろんな発声の方法について学び、自分なりのイメージをもって音色や強弱、旋律の特徴を生かして歌うことができる。	
			楽譜の書き方と読み方	楽典 ボディーパーカッション 「Plymouth Rock」		・楽譜の正しい読み方や書き方を身に付ける。 ・楽譜に興味を持ち、その仕組みを理解し、音楽表現に生かすことができる。 ・ボディーパーカッションの音色を工夫しながら演奏する。 ・共通のイメージを持って、アンサンブルにふさわしい表現を心がける。 ・リズムの基礎を身に付ける。	
			トーンチャイム ピアノ鑑賞	アンサンブル「星に願いを」 「プレリュードとフーガ」「熱情」 「ラ・カンパネッラ」「沈める寺」の鑑賞		・チャイムの発音原理を理解し、正しい演奏方法を身に付ける。 ・打音や消音のタイミングを合わせるために、個々の音を正確に発音できるようにする。 ・メロディーの流れ、メロディーとハーモニーとのバランスなどに注意し、より豊かな表現の為に強弱やテンポなどを工夫して演奏する。 ・映像や音源などを通してチェンバロや初期のピアノ、現在のピアノの構造や音色について理解する。 ・時代背景や楽器の構造を念頭に置いて、楽曲の表現効果を聴き取り、それぞれの特徴をまとめ、意見交換する。	
2	9	中間	オーケストラ 器楽曲鑑賞	オーケストラで使用する楽器 オーケストラスコアの見方 バレエ音楽「ボレロ」 交響曲第9番「合唱付き」		・オーケストラで演奏される楽器の名称と分類、歴史を学び、実際の楽器や音源などを通して音色の特徴や構造の理解を深める。 ・教科書に記載されているオーケストラスコアの楽譜を見て、特徴を探し、気が付いた事を意見交換する。 ・楽曲の鑑賞を通して、さまざまな楽器の音色の特徴と表現上のかかわりを感じ取ることができる。 ・音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解し、聴くことができる。	
			ギター	ギターの構造や奏法「Let's play the guitar」「日曜日よりの使者」		・ギターの基本的な奏法を身に付け、メロディーを弾いたり、TAB譜を見て伴奏を弾いたりすることができる。 ・ギターの音色や奏法の特徴を生かして演奏することができる。 ・音色、リズム、旋律、強弱など、音楽を形作っている要素とそれらの働きを理解し、表現を工夫して演奏することができる。	
			プレゼンテーション	組曲「動物の謝肉祭」の鑑賞		・楽曲の文化的、歴史的背景や、作曲家による表現の特徴を理解することができる。 ・鑑賞後に自分の気に入った曲を選び、その良さや特徴を伝えることができる。	
			オペラ 創作	オペラ「カルメン」の鑑賞 旋律の雰囲気を変化させよう		・劇中の曲を鑑賞し、歌唱や器楽の様々な組み合わせによる表現を味わう。また、楽曲の音楽の特徴を捉え、それらと場面の状況や登場人物の心情などとの結びつきを感じ取ることができる。 ・オペラに興味を持つとともに、音楽とその他さまざまな要素が結集して表現が生み出されていることを理解する。 ・音のつなげ方やまとめ、要素を理解するとともに、ある旋律に音を加えたり要素を変化させる技能を身に付け、自己のイメージをもって創作表現を創意工夫することができる。	
3	1	学年末	西洋音楽史	西洋音楽の流れ モーツァルトの生涯と作品		・西洋音楽の流れを知り、時代の代表する作曲家の歴史的背景、社会の状況などを理解し、創造的に味わって聴くことができる。 ・モーツァルトの生涯をそれぞれの先品の作品をたどりながら知る。 ・時代背景とともに「音楽家」という職業の変化について知る。	
			リズム演奏	「Clap, TapwithCUPS!」		・リズムを聴き取り、聴き取ったリズムを打つことができる。 ・イタリア語で歌詞を読み、歌詞の内容や背景を理解し、曲想を捉えて歌うことができる。 ・歌手の演奏を鑑賞し、表現の違いとその違いについて関心を持つ。 ・曲想と音色や奏法との関わりについて理解している。 ・音楽を作る要素や、それらの働きを感じながらどのように演奏するかについての表現意図をもつことができる。	
			日本の伝統音楽	雅楽「舞楽陵王」 能「道成寺」 箏曲「みだれ」 尺八曲「鹿の遠音」		・日本の伝統音楽における楽器の音色の特徴と表現上の効果と関わり合いを感じ取り、その良さや美しさを鑑賞後に文章などで表現したり、意見交換をすることができる。	